

興來大
讀為其
師為其
乙
于止
于

漱石全集
第二十六卷

日記及斷片
下

全三十四卷 第二十六回配本

昭和三十三年六月十二日 第一刷發行

漱石全集 第二十六卷

定價 一五〇圓

著者 夏目漱石

發行者 東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地
岩波雄二郎

印刷者 東京都青梅市根ヶ布三八五番地
山田一雄



發行所

東京都千代田區
神田一ツ橋二ノ三
株式會社

岩波書店

落丁本・亂丁本はお取替いたします

精興社印刷・永井製本

目次

斷片	(明治四十三年仲秋頃より明治四十四年初夏頃まで)	三
日記	(明治四十四年五月九日より十二月十五日まで)	一〇
斷片	(明治四十四年五月十六日より同十二月頃まで)	八六
日記	(明治四十五年五月より大正元年十月五日まで)	九四
日記及斷片	(明治四十五年五月以降)	一二八
日記及斷片	(大正三年)	一三三
日記	(大正四年三月十九日より四月九日まで)	一四九
斷片	(大正四年一月頃より十一月頃まで)	一五五

日記

(大正四年十一月九日より同十七日頃まで)

一七一

日記及斷片

(大正四年十二月頃より大正五年七月二十七日まで)

一八〇

斷片

(大正五年初夏頃)

二二九

解説

二三三

注解

二三五

斷片

——明治四十三年仲秋頃より——
明治四十四年初夏頃まで

○ Art and Life and Philosophy.

Life is art : ^{sic} analizability, ^{sic} synthesizability. Its changability, its dependence on the environment.

○ Philosophy ; its isolated character, its unmovability, its fixity and void, it leaves out the sum total of life's content.

○ Philosophy is form, art content : formal ∴ unification possible, at the same time its application possible. Art is never united in principle, its myriad variety, its living powers, its application in real life.

× Joseph Hooker aged 93 Linnean Society June 16.

× Jefferies and Johnson at Reno, July 14.

30,000 people coming

Millionaire suffering from privations

× Münsterberg

× Encyclopædia 11th edition——5.0.000

Cambridge university Times 4.0.000

1.0.000

× Haydn^{sic} was reported twice as dead. On one occasion——

× Oxford へ學生 へ literary taste Litt. D.

3000 へ中 twenty が Dr. of Lit. へ學位ヲ得ル處

く attend ×

× Dynamic Sociology

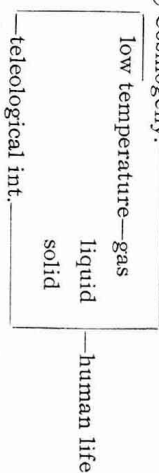
1910, 十月 6th. Bergson \ translator ^{sic} Mone Blanc
ノ上デ死ス、青年、 Pogson. Heart collapse

壽命

○ジエームス※

○俳句 詩

○Cosmogony.



○Fechner—consciousness of the earth
Physicist—molecular activities of cr[y]stal

—analogous ?

○變化 antagonism fossilized.

○Continuity ? —Gap ?

life—death

organic—inorganic

light—darkness

○Metaphysic—pyramid

Pilgrimage ? —sightseeing ?

involves an enormous expense.

○Uniformity. (law of) = both assumption and

gold in nature

※※※ grammar

fact. Generalization = fact. One generalization
excludes all others. ∴ fact becomes untrue, or
partial truth is made use of as if it were the
whole truth.

Comte Ennuui.

○Eucken, Spiritual Life.

○Altruism and egoism

○ Sequential change へ 變へ disturbance.

Complexity (opposite qualities) へ 變へ disturbance.

○ Disintegration of matter and integration of motion.

Disintegration of motion and integration of matter.

○ Dostojewskie へ epileptic

死刑ヲ受ケタルアトノ心。

○ 統一病。 Phenomenal world.

東への會話

○ James へ 文章

○ Baudelaire. Douglas Jerrold.

○ Modesty—*Word*.

○ Nature—Humboldt.

○ Universality of consciousness

" " life

Man as he ideally is—metaphysist^{sic}

Man as he has been—evolutionist

Man as he actually is—Empiricist

○ 24 hours. —constant

○ Work to go through in a day—inconstant increase.

○ Natural conclusion.

○ Essential social force

1 Self-preservation { feeding
clothing
sheltering

2 Reproduction { transportation
commerce
finance

○ Non-Essential—Aesthetic Moral

○ Professionals—duty—pain
Amateurs — —pleasure —impartiality

—exclude personal inclination.—mechanicalization of self.—unity extorted out one's supple and susceptible likings. —a means for strangers to trust upon, by lowering oneself to the state of inanimate fixity.—(∴ a means of self-preservation at the expense of his wilfulness.)—there is no spiritual element in stereotyped rules and routines.—Justice—regularity etc.

○卵ヲ孵化スル America ノ 駝鳥

○Crystal ノ normal form へ polyhedron. Irregularity—angle—facet—axis ガ 缺ク

○Planet へ orbit へ ellipse. 所ガ完全ナ ellipse デ ナイ へ mutual attraction へ law.

○Kant Earth spheroidal form ニンキ 54

○Mortality—average 40. 68

○Prodigality of Nature 卵の數 87

○Homer, Plato, Aristotle

(colour sense)

是等ノ現代ニ於ル position ヲ見ても我等と彼等の差ハ昨と今ノ如キ觀あり。決〔シテ〕B. C. 何年ノ様な心持セス。inorganic, organic, living animal, man——此 long evolution カラ見レバ a minute デアル。短カイ。先ヅ no evolution ト見デモよい。然るに吾々は互ニ違フ様ニ思フ。(兄弟デモ友人デモ(外國人ハ無論) 夫丈人間ガ細カイノデアル。人間ノ細カク發達セルコモ亦驚くべきである。

○無理ニ讀む事。時間ノ制限、多忙、名譽ノ爲め、ge-niessen ヲ妨グ。詩集を讀む例

○

Simple { Sensation—feeling } Synchronical
Perception—intellect }

Complex and (Sentiment) Synchronical デアル
higher { Judgment } [ヲ]得ヅン (intuition)

idea

right or wrong

good or bad

∴ Sentiment ノ importance. As important as intellectual judgment, nay more. Intuition トハ余ノ考デ是ヲ云フナリ、彼等一派ノ psychologist ノ云フ如ク feeling ハ conservative ナ intellect ガ progressive ノ case ノミナラズ。

○劃一ノ刑罰ハ不備ナリ。十人ガ十人トモ人ヲ殺シテモ同シ circumstances ノ下ニ殺スモノナシ。法律ハ之ヲ無視ス。教育モ然リ。

○Science ハ law of uniformity of time and space ノ上ニ樹立ス、ダカラ世界ノ果ヲ斷ジ數萬年ノ昔を斷

ジ、又數千年ノ未來ヲ斷ズ。所ガ human beings ヲ govern スル law ハ (モシアリトスルモ) 毫モ application ガ利カナイ。是ハ uniformity ガナイノカ又ハ uniformity ガアツテモ非常ニ複雑デ all cases ガ all different デアルタメデアル。甲ニ金ヲヤツテ悦ンダカラ乙ヘ持ツテ行クト却ツテ怒ラレルヲガアル。是ハ甲ト乙ヲ同じ law ガ govern シテ居ナイト見做スヨリモ甲ト乙ガ既ニ同一ノモノデナイト見ルベキ〔ガ〕至當デアル。サウシテ甲、乙、丙、丁、戊、己^原悉ク different ダトスレバ是等ガ uniformity ノ law ニ govern サレルニシタ所デ similar case ハ生涯ニ一遍モナイ方が常識ノ判斷デアル。∴ law ハ nature ノ world ニ於ル如ク human world ヲ govern シテ居ル。但シ個々人々 infinite variety ヲ構成スル故ニ甲一人ニ apply スル law ヲ發見スルノハ人間ノ手際トシテ too complicate ナモノデアル。ヨシ之ヲ見出シタ所デソレヲ乙ニ apply スルコトハ猶更出來〔ス〕ナリ。

從ツテ law ハアツテモナイト一般に chaotic なる。

夫ダカラ人間ハ昔カラ盲目ダト云ハレテ居ル。始終遣リ損ツテバカリ居ル。此所ニ人間ノ變化ノアル所ガアリ學者ノ及バザル所ガアリ、不可思議ニ見エル所ガアリ、面白イ所ガアリ口惜イ所ガアルノデアル。土木ノ技師ガ橋ヲ作ル様ニ萬事前カラ分ツタラバ人間學ヲ研究サヘスレバ政治家ニハスグナレル。ソウシテ内閣總辭職ハ決シテ起リツコナイ譯デアル。タゞ人間學ガ土木工學ノ様ニ淺薄ナモノデナイノデ天晴ナ學者モ車夫ヤ何カニ對シ遣リ損ナツテ怒ラレタリ、耻ヲカ、セラレタリシテ居ル。ソコガ公平デ非常ニ興味ノアル所デアル。

○ Mechanical invention と literary invention ノ同ジ所、

- 1) objective (association and dis.
- 2) new combination

3) objective に放射シテ test x

Mechanical invention ノ value ハ實地ノ application ガ出來ル出來ナイデキマル。

Literary invention ハ夫程デモナイ様ニ見エルガ criterion ハ矢張り冥々ノ間ニ其所ニ歸着シテ居ル。コンナ人間ガアルモノカト云はれるとそれが ultimate ト人モ思ヒ我モ思フ様也、

けれども mechanical invention ノ方は nature ノ reproduction デハ invention ニナライノミナラズ、可成 nature カラ飛び離れたものでなくては value ガナイ様ニ考ヘラレル、所ガ創作ハ nature 其物 (reproduction) デモ value ガアル様ニ云はれてゐる。

○ Maupassant, La Confession de Théodulfe Sabot. Sabot ガ坊サンノ所へ行シテ confession ヲヤツテ寺ノ修繕ヲ受負ハシテモラフ、

○ 三重吉、小宮ヲ傍ニ置イテ云フ、何一夜作りデヤツ

ツケテシマイマシタ、ネー小宮、

○作物ヲホメルト得意ニナリ、ワルク云フト悄ゲル、
而シテ舉止ハ是ト反對ニホメルト卑下シワルク云フト
辯護スル、

○京傳畫、櫻ノ下ニ花魁トカムロ、二圓五十錢、

千蔭、冠一ツ上ニ字アリ、一圓五十錢、

バラニ頬白、蘆雪、ロセツハ應舉ノ十哲デス、

ヨク出來テ居マス、小竹ノ詩ハ小竹ノ處立チ切ツ
テアル、

○夜店、日蓮上人、物茂卿、親鸞上人、弘法大師、

○三色版ノ上ニ司馬江漢描之、

○家内喜多留、子產婦、勝男武士

○大久保から戸山へ抜ける處で雨ニ逢ふ。どうせと思
つたからズ濡デ悠々とあるく、後から馳ケテ通り越
すものがある。若葉が data〔な〕杉を背景ニシテ軟か
に見える。夫が一齋ニ葉ヲ翻が〔へ〕シタカカラ軟カイ
者ガ急ニ凄まじくなつて背景ノ杉ノ物すごい色ト調和

シタ、

○胸突坂の上ヲ通ルト大キナ竹藪ガアツタ幹モ葉モ悉
く黄色い、其繁ツタ間から空が見える。左右は若葉ノ
節、

○a, b, c, d, 1, 1. 私ノ教ハルキハ1, 1ジヤナクツテ
ヨ、サウ段々改良スルノ子、

日記

明治四十四年五月九日
——
より十二月十五日まで

○五月九日〔火〕○○さんの婚禮披露。五時の約束で五時過^原し過ぎに西片町へ着いたら門前にもう五六臺の車が見えた。床を前にして婿さんの親類が五人程並んでゐる。何れも黒羽二重の紋付であるが、一寸田舎風にも見える。

○禎次さん丈が縞の着物を着てゐたが、是は自分が縞の着物でも好いかと念を押したので、御交際の爲とも見られた。

○しばらくして○○醫學博士夫婦が來た。是も媳方の親類で余も其方であるからまづ主人側である。博士は絹帽にフロックであつた。大學に二十五年以上教授をしてゐると云つた。學生のときは大學東校とか云つて、自分の妻の父なども同じ仲間であつたと云つた。

○又しばらくして○○男爵夫婦が來た。此妻君は舊幕の遺臣某伯爵の娘である。男爵は大變長く官海に居た丈で古くから名前を聞いてゐたが會つて見ると存外若い顔をしてゐる。頭も黒い。

○御媳さんが出て挨拶をした。穆^{*}さんの奥さんも出て御辭儀をした。鈴木^{*}の御父さんが御前は○○さんには始めてだらうと云つたらすゞ子さんはとぼけて、始めましてと自分に挨拶をしたから自分も始めましてと頭を下げた。夫丈では物足らなかつたから、い時^原も御達者で……と付け加へて置いた。實際朝鮮ではすゞ子さんのうちに二週間も世話になつてゐたのである。

○つい御近所に居りますが、……と男爵が博士に挨拶をした。

○すづ子^原さんの朝鮮からつれて來た二人の男の子が、後ろから來て自分の頭を撫^原でゝて行つた。「おい覺えてゐるか」と云つたら「知らないや」と答へた

○やがて宴席へ招待される。○○組の重役の○○學士

が仲人で、其人と余が英國にゐた時、一面の識があるので余を其隣へやつた。すると余は老博士の上に坐る事になつたので、席をかへて、鈴木の御父さんの上に坐る事にした。余〔の〕上座には白髪のの御老人がゐる。

御父さんの紹介によると此老人は始終地方〔に〕居て親戚ながらいつも東京へ來たのだと云つた。御爺さんは正四位勳四等……と名刺原を一々配つてあるいてゐた。

○やがて御膳が出た。是は儀式的のもので、赤塗の盃に椀が付いてゐる丈である。丸髻原に行つた紋付の女が一々客の前へ銚子を持つて來て、一々御辭義原をして盃へ酒原へ三度に注いで又御辭義をして隣へ行く。みんな伊豫紋の下女ださうである。盃をもらひに歩く時そこに坐つてゐた女に酌を頼まうと思つて、おいと呼びかけて横を向いたら豈計らんやすゞ子さんであつたので驚ろいた位である。椀をあけたら鯛の切身が入つてゐた。それを一口くつて箸を置いた。酒は一口も飲まな

かつた。程なく此膳は撤回原された。

○次には台の上に口取を盛つて、傍に刺身をつけた膳を運んだ。猪口もついてゐる。それに鯛原つた味噌汁が出た。副膳には一尺餘の焼鯛とうま煮原（ふき、）と、酢のもの（鰹か）、

○みんな主人側が廻つてあるく、仲人の學士がまづ先を越してくる。次に博士もくる。次に正四位の老人が來る。是では無精な余も如何ともする能はなくなつて、まづ御婿さんの處へ行つて御盃を頂戴した。どうか宜しくと云つて挨拶した。あちらへ御出の節は是非御電報を願ひます、えゝ濱寺から電車を通つてゐます、私は英國だの佛蘭西だの露西亞だのに八年居りました。

○御嫁さんからも盃をもらふ。次に仲人の奥さんの番になつた。是は英國で牛鍋を御馳走になつた、人だが、今見ても思ひ出せない。金鎖を襟からかけて金縁の眼鏡をかけてゐる。

「英國の方が好いでせう」と聞いたら「えゝ九年も居

りましたから向ふの方が大變宜う御座います」と云ふ。
「もう然し東京に御慣れでせう」と云ふと、「漸くなれました。近頃では御友達も出来ましたし」「今度は漫遊に入らしたら好いでせう」「え、何時でも参りたう御座います」

「あの時分より大分肥られた、御前は氣が付かないかも知れないが」と旦那の方が云つた。旦那は朝九時から日暮迄殆んど坐らないで立ちつゞけに忙がしい事を述べた。英國の方が規則正しい生活が出来て可い、彼地では夜人が来る事などは減多にない、晩めしもまあ宅でたべるのが例であるが、日本では宅で食ふのが稀な位です、どうもあなた方の生活が羨ましいです……」

「傍から見ると誰の職業でも好く見えるものですよ、——それぢやもつと英國に入らつしつたら可かつたんですね」

「私も歸りたくはなかつたのですが、子供の教育が

困るので御處置をつけに來たので、夫から實は又向ふへ渡る積りの處を、此方へ引き取られまして、夫に支那の方で會社が大分損をしまして、其片付方に南清の方へ旅行をするやら何やらでとう／＼此方へ引きとめられて仕舞ひました」。

○博士の前へ出ると「あなたの御病氣は何で御座いましたか」「へえ潰瘍、たしか額田が修善寺へ参りはしませんか」「成程宮本叔が」

「え、私は熊本で、八代で御座います、池邊君や徳富君とは知り合で御座います」

「池邊君杯の方があなたより後輩でせう」

「え、後輩になります」

○それから正四位の老人からも盃を貰つて、御婚さんの親類は略して席へ返つた。博士の奥さんの前で、すゞ子さんが今日は大變勤めるのですねと云つた。

○自分の席へ歸つてから鈴木の御父さんと書畫の話をした(或は席を離れぬ前)

「あれはりやうらいです、鵬齋^{*}よりも字は旨いですが、私は大雅堂のものを四十點持つてゐます。いえ集めた譯ぢやない、道具屋の方で上方へ買出しに行つて是はどうでせうと見せにくる。夫を御前いくらで買つたか^原かと聞くと、いくら／＼と答へる。それで私がぢやいからで買つてやらふと云ふと宜しう御座いますと云つて置いて行く。あの屏風などは十三圓で買つたのを二十圓で買ふ約束をしたら月末に十八圓と書いて來ました。あの金丈でも焼くと二圓五十錢位出ます」

「私は大雅堂の松島の全景をかけた繪巻物を持つて居ます。是は大雅堂が二十七のとき金澤に行つてゐて書いたものです。終りに紅芙蓉^{*}の印があります。紅芙蓉は旨いです」

「大雅堂の廿のときの瀧を持つてゐます。が北宗の筆と狩野の筆をまぜたやうなものです。大雅堂は柳澤^{*}に行つてから南畫の風を覺えたのです」

「私はもと金剛寺坂^{*}に居ました。隣が福地源一郎の

宅でした。福地の妻君が癪^{*}を起して……した事がありました。昔は崖の下は崖の上から斜に尺をとつて、其間^{*}は誰の所有でもなかつたのです、だから苦情が起りません。町の名でも昔は往來へ付けたものです。だから片方で名の違つてゐる様な事はありません、

それで徳川家の所有の地面杯は無税でした。越後の高田杯もさうです。江戸も無論さうです。所が市ヶ谷に本村町といふ所があつて、あすこ丈が税を取られました。何んでかと云ふと書き損つたのであります、昔は一度書き損ふと夫成になつたのです」

「私は觀世黑雪^{*}の書いた謠本を百冊持つてゐます、珍らしい黒い雪の様だと云ふので賜つた名です、秀忠公の時代でした。夫を見ると今の謠でわからない所がよく分ります。羽衣に……色人はと云ふのがありますが、色人では分りません、黒雪の本を調べて見ると宮人^{*}です」

「此疊は麻に澁をかけたものです、昔は御城の疊は

みな紅色の縁を取つたものです、黒い縁は台所に限り
ました。又縁なしは牢屋の疊です、御目見え以下は板
の間、御目見え以上は縁なしです。白麻に十文字をか
いて其中に丸をかけたのを本願寺では用ひてゐました。
これを本願寺縁と稱へます。極いゝのは絹の縁です、
丁度御雛さまのと同様です」

「此太刀は慶長頃のです。此具足はもつと新しい御
座います」

男爵は鎧に興味があると見えて鎧の嚢をした。かう
云ふものは無くなるのは惜しい。獨乙でもカブトや胴
アテは昔の具足の眞似をしたのを着る。……」

「今鎧を造るものがたつた二人残つてゐます……」

二重橋の前の楠公の像は不都合です、あゝあぶみを前
へ出し反り却つては落ちます、さうして手綱の先が
あゝ手の先へあまつては邪魔で仕方がない手綱の先は
下押し込んで小指と薬指の間に挟むものです。夫
からあの太刀が間違つてゐる。あれでは一里位かけ

ると鞍へぶつかつて、鞆がワレテ仕舞ます。騎馬では
尻鞆にかぎつたものです。熊の皮でも、虎の皮でも、
又鬼丸などゝ云ふ作りになると皮の上を漆で塗つたも
のです」

○頑次さんが話をうたひますと云つて着座した。高砂
をやらうと思ふが節のついた本がない。が夏目さんは
文句を知つちやゐないだらう……」

「私は御目出度い話は知らない」と云ふと御父さん
が笑ひながら、「鞍馬天狗から蟬丸俊寛……」

頑次さんの話はしつかりしてゐるが聲がメタリツク
で蓄音機に似た處がある。

○やがて膳を引いて新しい膳が又出た此度のも副膳
がついてゐる。本膳には汁、御つぼ、それから御平、
御酢あへ、御椀(汁)等である。

是で膳が五度出て、汁が五つ出た譯になる。

○朱塗の御椀で飯を食つて御代りに茶をかけてくれと
云つたら御湯ですかと下女が聞き返した。婚禮では茶